

エコバッグは複数持ち歩きが新潮流 紙袋は再利用しやすい反面エコに疑問も

－ 第2回脱プラスチックに関する調査（2022年） －

株式会社クロス・マーケティング（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：五十嵐 幹）は、全国20歳～69歳の男女を対象に「第2回脱プラスチックに関する調査（2022年）」を実施しました。4月にプラスチック資源循環促進法が施行されて半年経ちますが、普段の買い物ではどのような意識、行動をしているのでしょうか。「普段の買い物やテイクアウトでしているエコ活動」「エコバッグの利用の仕方」「プラスチックのカトラリーが無料配布されなくなった時の行動」「レジでもらえる紙袋についての意識」について聴取し、分析しました。

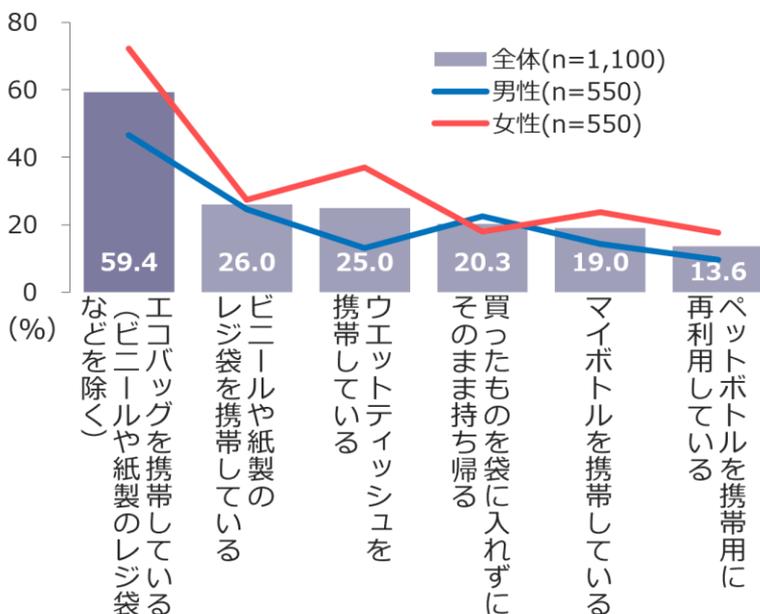
◆自主調査リリースの続きはこちらへ ⇒ <https://www.cross-m.co.jp/report/life/20221005plastic/>

■調査結果

- ✓ **普段の買い物やテイクアウトで「エコバッグを携帯している」が6割。〈図1〉**
女性「エコバッグを携帯している」や「おしぼりをもらわないためにウエットティッシュを携帯している」人が多い。
- ✓ **エコバッグは「用途に合わせて複数持ち歩いている人」が半数。〈図2〉**
「用途に合わせて複数持ち歩いている」「持参したエコバッグに入りきらない分は普通のバッグ等に入れる」など、女性は複数のバッグで持ち帰るが、男性は1つにまとめて持ち帰る人が多い。
- ✓ **プラスチックのカトラリーが無料配布されなくなった時の行動としては「箸が無料でもらえるなら箸を使う」が35.0%。「マイスプーンやマイフォークを持ち歩くようにする」が17.8%、「無料でもらえないなら購入をあきらめる」が17.5%で続く。〈図3〉**
年代別では、40代と60代が「箸が無料でもらえるなら箸を使う」が高い。
- ✓ **レジでもらえる紙袋について、「丈夫なものは繰り返し使う」は60代が4割。〈図4〉**
環境に対する意識の「プラスチックゴミが減って環境にやさしいと思う」は8.0%と低い結果。

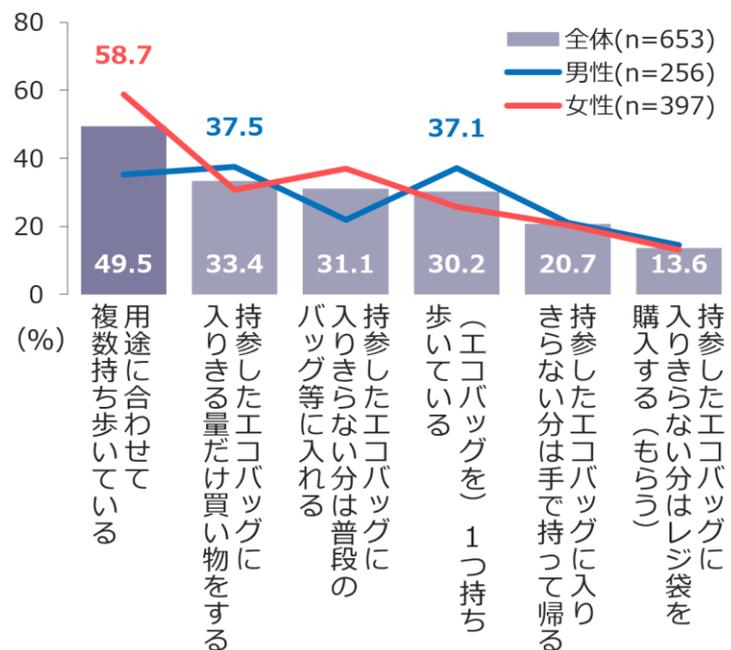
＜図1＞ 普段の買い物やテイクアウトでしているエコ活動

（10%以上の項目を表示 複数回答：n=1,100）

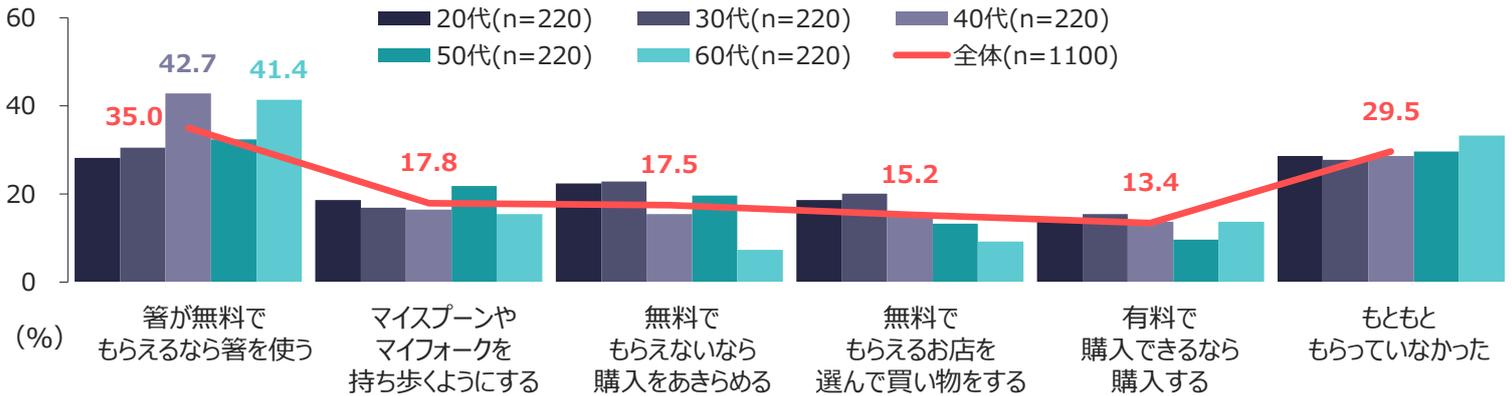


＜図2＞ エコバッグの利用の仕方

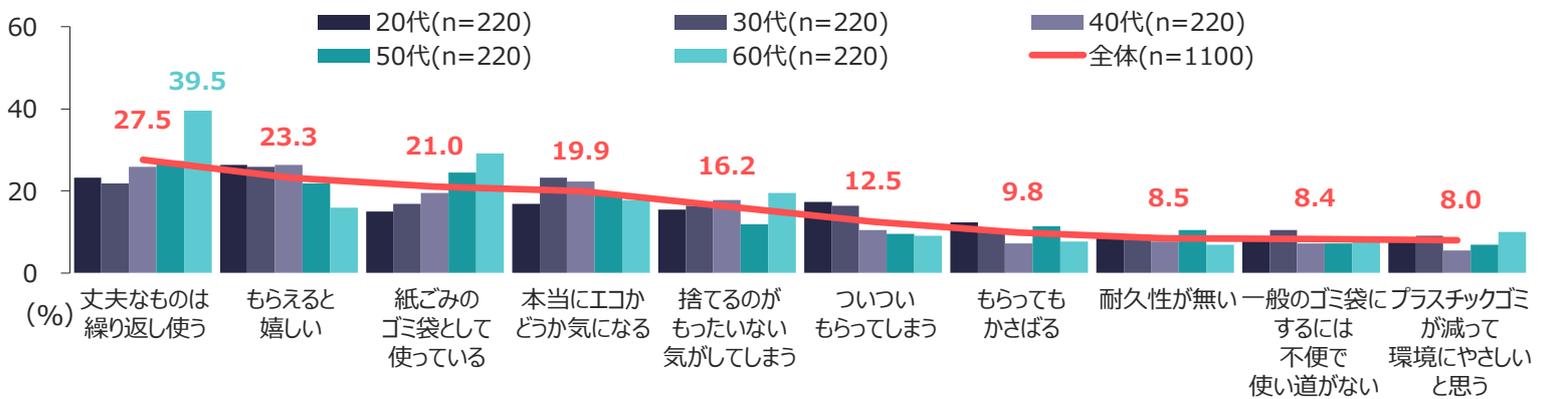
（複数回答：エコバッグを携帯している人ベース：n=653）



＜図3＞プラスチックのカトラリーが無料配布されなくなったときの行動（複数回答：n=1,100）



＜図4＞レジでもらえる紙袋についての意識（複数回答：n=1,100）



■調査項目

- 属性設問
- 昨今の状況下で、現在、あなたが「してもいい」と思う外出を伴う行動
- 普段の買い物やテイクアウトでしているエコ活動
- エコバッグの利用の仕方
- プラスチックのカトラリーが無料配布されなくなった時の行動
- レジでもらえる紙袋についての意識

◆クロス集計表のダウンロードはこちらへ⇒ <https://www.cross-m.co.jp/report/life/20221005plastic/>

■調査概要

調査手法：インターネットリサーチ（クロス・マーケティングセルフ型アンケートツール「QiQUMO」使用）
 調査地域：全国47都道府県
 調査対象：20～69歳の男女
 調査期間：2022年9月30日（金）～10月3日（月）
 有効回答数：本調査1,100サンプル

※調査結果は、端数処理のため構成比が100%にならない場合があります

【会社概要】

会社名：株式会社クロス・マーケティング <http://www.cross-m.co.jp/>
 所在地：東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー24F
 設立：2003年4月1日
 代表者：代表取締役社長兼CEO 五十嵐 幹
 事業内容：マーケティングリサーチ事業、マーケティング・リサーチに関わるコンサルティング

◆本件に関する報道関係からのお問い合わせ先◆

広報担当：マーケティング部 TEL：03-6859-1192 FAX：03-6859-2275
 E-mail：pr-cm@cross-m.co.jp

「引用・転載時のクレジット表記のお願い」

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。
 <例> 「マーケティング・リサーチ会社のクロス・マーケティングが実施した調査によると・・・」

